

嗚呼、我等が母校。

校歌

嶺は秀づる 磐梯山
水は湛ふる 猪苗代
これぞ乾坤秀霊の
精氣鍾り成る處

明治三十七春 なかは
礎堅くきづかれて
星霜こゝに幾かえり
平和の覇者を育みぬ

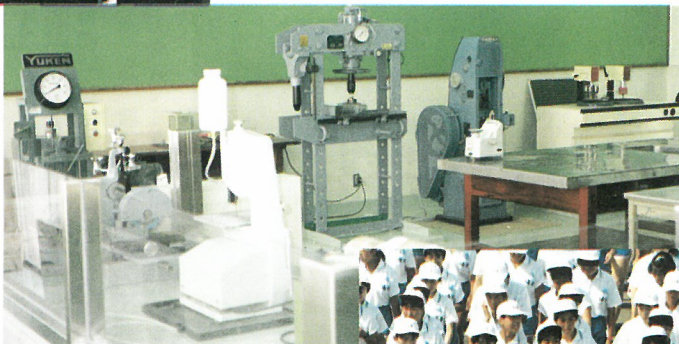
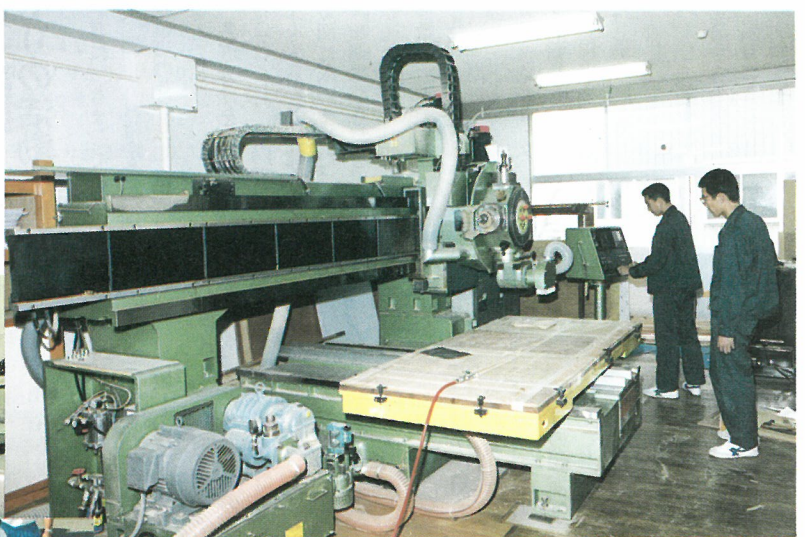
身には白虎の粋を享け
鶴を徽章に雄々しくも
至誠勤勞一すちに
進む健兒の意氣高し

時つ嶺は嶮しくも
寄せ来る浪は高くとも
これぞ我等の天地なる



たゞは旧制の染織科のモダンさがしのばれる最新の情報技術科。すでに情報処理教育研究推進校として全校挙げての指定研究に取り組みその成果は工業教育界にはかなり知られぬ波及効果をもたらした。工業高校ならではの面目躍如たるものがある。ハイテク志向時代のシボル学校として、層の拡充が期待されます。

京の衣櫛の華やきを演出し、世界に冠たる工業立国の礎となつたハイテクの科学を育んできた染織系のOB諸兄。鶴ヶ城天守の瓦を脱いだのをゆかりとする誇り高き染織系のパンカラ界隈。そして、会津藩の伝統の技と格闘しながら、青春の想いを塗り込めてきた染織系のみ。惜しくもそれらの科名は、世の拡充と変遷の中に埋もれて、いまはない。しかし、たゞはハイテク系、共学制導入の雄姿としてモダンな校風を創出し、斬新なデザインの発信基地と化しています。



たとえば全国初のセラミック科、伝統を誇る染織科時代のノウハウに学びながら、先進の実習設備を導入して工業教育界をリードします。



たとえばインターハイの全国大会で福島県選手団の旗手に選ばれた星孝君(セラミック科三年)の活躍で大活躍し、学窓会卒業生九名の県高校スポーツ界の頂点に立つ質実剛健文武両道校風、いまも健在!!



創立以来の歴史と伝統を育む染織、漆工、窯業の三学科の名は学科の拡充により、いまはもうない。しかし、OB名簿の三割余、旧制なら五割を占めるその青春群像が培ってきた気風と、学びに勤む校風は今日、いさかも色褪ることなく、夢多き二十一世紀の黎明のときに刻むであろう百周年の記念すべき日に向けて歩むべき道として、ときには怒濤の如くまた潮騒のように学窓を潤しながら、同窓会の中核として、また我が国の工業界のパイオニアとしての道程を拓き続けてくれることを希って止まない。

創立九十年を迎えた我等が会工は、学校関係者の心からなる声援と、同窓諸兄の熱き母校愛に包まれて、十一月六日その記念式典を挙行、百周年への展望を拓くべき記念事業も滞りなく完了した。うれし限りである。感謝の極みである。ここにそのあらましをリポートし、在学生諸君の活躍に心からなる拍手を贈りながら、いまひとたび会史をひもといて母校への想いを車座のように寄せあい、創立百周年へ向かう同窓の絆を深めあいたいものである。先輩の輝かしい軌跡に学び、後輩の活躍に心踊らせながら……。

同窓会長 吉田一栄

九十周年創立

本校創立九十周年・分校四十周年記念行事を終えて

吉田一栄 記念行事実行委員会委員長

それぞれの会工史に想いを馳せながら…同窓二万の。

母校の創立九十周年に関わる行事と事業が具体的企画となったのは、平成二年二月九日（金）十三時、校長室における「福島県立会津工業高等学校創立九十周年記念行事実行委員会会則」の審議に関する準備会の開催からでした。

そこでは、同窓会側、山内清司副会長、齋藤恵一幹事長それに私、学校側、青津直校長、大山次教頭、小沼岑生教諭、江花光泰教諭、荒井忠夫教諭、齋藤四志男教諭の出席の下に、主な記念行事項目と字句の補足、修正等が審議されました。

第二回の準備会を三月九日（金）十一時に開催し、同日午後の職員会で了承されました。第三回の準備会は年度の改まった五月二十二日（火）午前十時から開かれ、「福島県立会津工業高等学校創立九十周年並びに本郷分校四十周年記念行事実行委員会会則」が練り上げられました。

また、六月四日、卒業生総数を（明治三十三年度）「徒弟学校時代から」教務課に調べさせましたところ、平成二年度現在で、約一万八千八百名の卒業生を輩出していることがわかりました。

伝統の気風、いまも。有り難う、実行委員の皆様。

第一回実行委員会を十一月二十六日に持ち「会則」（平成二年十一月二十六日から施行する）と「実行委員役員」が決定され、式典を平成四年十月下旬とする等の諸行事及び会工資料館整備等の事業が決まりました。事業費として四千六百万円が計上され、その主な内容を次のようにしました。

- (一) 式典関係 五百万円
 - (二) 記念誌 四百万円
 - (三) 記念新聞 四十万円
 - (四) 会工資料館整備 二千万円
 - (五) トレーニング器具 九百万円
 - (六) 諸雑費 七百万円
- 次に、収入として、
- (一) 同窓会 二千五百万円
 - (二) PTA 四百五十万円
 - (三) 教職員 五十万円
 - (四) 会社関係 千五百万円
 - (五) 会工購買部 百万円

計四千六百万円を見込みました。

趣意書「福島県会津工業高等学校創立九十周年行事並びに記念事業募金趣意書」（案）については、二月二十二日の実行委員会において審議されました。

後輩に、県下初のトレーニングセンターを。

平成三年度になり、南一・三棟の改築がはじまりまして、トレーニング器具を設置する場所が無くなるという事態になり、また、収蔵品の補修は、免税対象事業とならないことも判明するなど、先の実行委員会です承された事業内容の再検討を迫られることになりました。さらに、年度末教職員人事異動があったことなどから、記念事業内容の再検討は六月二十八日の実行委員会に持越されました。この委員会で、先に懸案となった事項について検討され、次のように決定されました。

- (一) 校舎改築により、予定していたトレーニング器具を設置する建物が無くなってしまふので、トレーニング器具を設置する建物を建設する。
- (二) 資料室の大幅な改修と保存資料の補修については、現在、使用している資料室は産業振興法に基づく補助の建物の上に建造された機械科の標本室という目的建造物であるため、目的外使用を目的とした大幅な改修は認められないこと。
- (三) 保存資料の修復は国税庁からの免税措置の対象外であること。
- (四) したがって、上の(二)、(三)のため多額の資金を当てることは得策ではない。

そして、記念事業内容の一部が次のように変更となり、

- (一) 会工資料館整備 四百五十万円
- (二) トレーニングルーム（仮称） 二千五百万円

・トレーニング器具 二千万円

記念行動を通じて深めあった同窓の絆。

その後、記念行事・事業の全体について七月三日に各専門部会において、審議されまし

た。七月九日には、「趣意書」を検討し直すなどを行い、七月二十三日、実行委員会において、記念行事・事業の内容が固まりました。実質上の活動に入ったのです。

七月下旬、故佐藤一氏の指導を得て、トレーニングルーム（仮称）基本設計を荒川真一建築設計事務所依頼し、八月二十日に出来上がりしました。

トレーニングセンターと仮称の呼名を交えるなどして、九月六日に寄付採納文書を県教育長宛に提出し、受納認可が十月八日付けで下りました。

次に、国税庁からの免税措置の認可を得ることでした。その認可は、一カ月余り後の十一月十九日付けで下りたのです。これでも、短い期間の認可であるということでした。

記念行事・事業の活動が軌道に乗り始めたので、母校の実行委員会事務局と円滑な連絡を図るため、八月下旬、事務局専用FAX電話（番号一九一九九二）を設置しました。免税措置認可後、「趣意書」等の募金活動に必要な書類の印刷、送金受納のための郵便振替局の開設や銀行口座の設置と慌ただしくなりましたが、冬のボーナス時期に合わせて、同窓会員と企業宛に学校全職員上げて送金業務を行いました。

母校愛を謳歌した手づくりの活動に誇りを。

寄付金の応募につきましては、一―三月は順調でしたが、四、五月は中絶の様相でした。事務局の募金担当の荒井先生は相当悩んだと、後で聞かれました。

会津では、各班分けをして担当者を決め募金活動に入ることをし、校内では、「趣意書」等の再送作業をするなど、募金に関して一層の理解を各方面に求めました。その甲斐あって、六月以降順調になりだし、七月には五百件を越す応募送金など、十月末までの五ヵ月間で総応募件数の六十七・五％余りの募金が寄せられました。

おかげさまで、当初予算を上回る五千万円を越す募金が寄せられました。

この紙面をお借りし、実行委員長として、改めてこの記念行事・事業にご協賛下さいました同窓生はじめ、関係各位に感謝申し上げますと共に、御礼申し上げます。

なお、このたびの募金活動では、市町村からの寄付、企業からの広告を一切行わず、関係各位のご協力によるもので、全く自前の募金活動でありましたことを申し添えます。

トレーニングセンターと資料室と体育館の幕群と。

トレーニングセンター（仮称）の建設につきましては、平成四年度着工となりました。五月中旬、入札、堀井建設㈱が建設を行ないました。地鎮祭、棟上式もどここおりなく執、トレーニングセンター（仮称）について、在校生（後輩諸君）にネーミングを募集したところ、多数の応募の中から「会工トレーニングセンター」と決まりました。

資料室の改修は、東條建設が行い、収蔵品の補修を行い、収納棚、ケース等を購入、整備しました。その他に、体育館暗幕等の改修を行ないました。

厳粛なうちにも盛大に記念式典と祝賀会を。

記念式典の挙行に際しましては、及川校長先生の指揮の下、校内職員が実行委員の方々と連携を図りながら、組織的、合理的に進め、厳粛なうちにも盛大に挙行できました。

学校関係の来客の方からも、「流石は九十年の伝統ですね」とお褒めの言葉も頂戴しましたことを添えさせて頂きます。

行い、工事が順調に進み、予定の八月下旬には完成しました。

五月二十七日、この建設にご協力を下さいました佐藤一氏の訃報に接しました。五月二十九日の葬儀には、同窓会を代表しまして、参列させていただきました。氏のご冥福をお祈り申し上げます。

祝賀会は、「ゴールデンプラザ中の島会館」の大広間にはち切れんばかりの約四百名のお客さまをお迎えして、創立九十周年・四十周年にふさわしい賑々しく和やかに催されました。

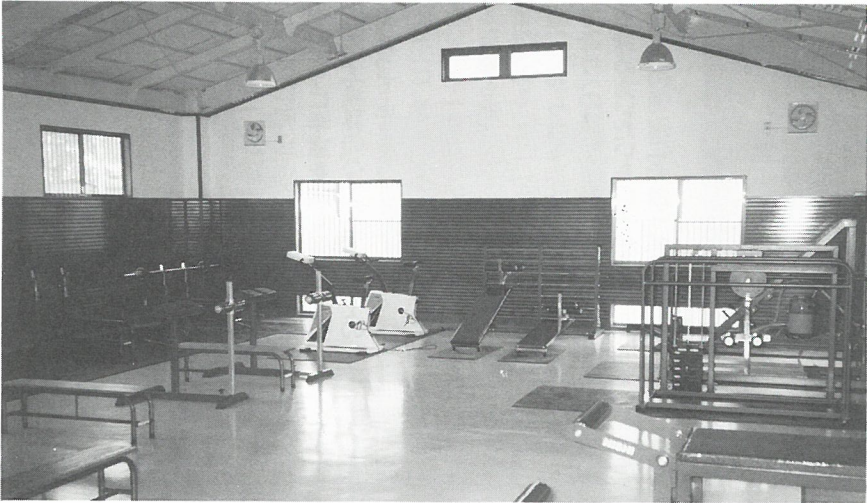
これも、ひとえに、快く実行委員をお引き受け下さいました同窓生の皆様へへの熱き思いの賜と感謝申し上げ、御礼申し上げます。

この記念行事・事業が、創立百周年記念に向けての第一歩となりますよう祈念し、報告いたします。



■会工トレーニングセンターの建設

●床面積150㎡(15m×10m)・鉄骨平家建。トレーニング器具は ニーリフトリ他10種、体育館東南寄りに建設。



■トレーニング器具の設置

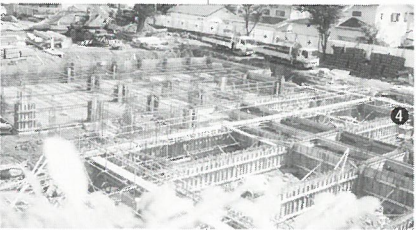
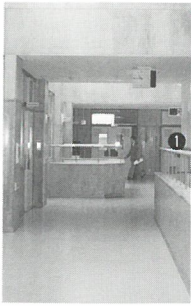


伝統の継承と発展を 校長 及川利彌

厳しい残暑もいつしか過ぎ去り、急速に秋が深まりつつある昨今であります。
同窓生の皆様には御健勝にてお過ごしのことと喜び申し上げます。
今や二万名に達せんとする同窓生の方々が国の内外において、工業界はもとより政治・経済・文化・芸術・教育等あらゆる分野で活躍されておられますことは誠に御同慶の至りに存じます。
この四月、青津前校長の後任として着任以来、歴史と伝統に輝く東京、東海、近畿、坂下の各会工会定期総会に出席をさせていただきました。憧れをもって入学し、誇りをもって卒業した先輩各位の母校に寄せる熱き思いに感激するとともに、輝く伝統の重みを痛感して参りました。
本校は、ご承知のとおり福島県下十二校の工業系高校の中で、最古の歴史を誇り、県内最多の八学科を擁

する学校であります。
幸い質実剛健、文武両道の校風は、今なお健在であり部活動は活発に行われています。
福島県高等学校体育大会には十六部が出場、新体操バドミントン、水泳、陸上競技の四部が全国大会に駒を進めました。野球部は、甲子園を目指す夏の大会において二回戦で二対〇の惜敗、そして秋季会津地区予選では春に続いて再び優勝、県体に出場しましたが三対二の惜敗、再び涙をのみました。
本年は本校創立九十周年・分校創立四十周年の記念すべき年に当たり、吉田同窓会長を実行委員長とする実行委員会によって、トレーニングセンターの建設、標本資料等の整備、体育館暗幕の整備、記念誌の発行等の記念事業が着々と推進されています。
記念式典は、十一月六日に厳粛かつ盛大に挙行される運びであります。

現在、平成三・四年度の二か年計画で、校舎改築工事が行われています。第一期工事は既に完了し、情報技術、インテリア、セラミック各科の三年生が中廊下式の近代的な校舎で学んでいます。県財政逼迫の折、本校のみが校舎改築工事の実現をみていることは、県当局の格別の御配慮はもとより、各方面において活躍している幾多の同窓生の賜でもあります。
この記念すべき年に本校に籍を置く私どもは、同窓生の方々が営々として築き上げた本校の伝統を受け継ぎ、さらに発展させるべく全力を傾注する所存であります。
学校創立九十周年の今年、同窓生の皆様には従来にも増して御協力、御支援を賜り感謝に堪えません。心から御礼を申し上げます。
同窓生皆様の御健勝と御発展を祈念申し上げ御挨拶いたします。



①②南二棟改築第一期工事竣工。木の香漂うモダンなフロアに最新の実習機器を導入し、先進的教育実践に挑みます。③市の都市景観推進委員会の委員を送り込んでいる本校では、セラミックプラント室の屋根に、旧二十九連隊の兵舎一若松二中の旧校舎の会津赤瓦を再利用し、地域の人々の希いに応えます。④南二棟改築第二期工事も順調。平成5年度には第二体育館も予定しています。



11/11~13 同窓会美術展及び 会工美術部展 創立90周年・分校40周年記念行事

会津工業高校創立90周年・分校創立40周年記念行事の一つとして、「同窓生美術展及び会工美術部展」は11月11日(水)~13日(金)までの3日間会津若松市文化福祉センターで開催されました。その状況などについて以下簡単にまとめてご報告いたします。

■10日(火) P.M.:1.00~4.00まで実行委員および美術部員によって会場作成と作品の陳列を行なった。

■11日(水) A.M.:9.30よりテーブルカットを、吉田・実行委員長、山内・美術展実行委員長、学校長のご挨拶をいただき、来賓として会津美術協会々々長照井久良人様、会津工芸新生会々々長須藤紀雄様を始めとして、実行委員各位、美術部長・斎藤香代子にてテーブルカットを盛大に開催し、2年セラミック科生徒40名が参加した。大勢の一般客が鑑賞におとずれた。

P.M.:1.00より各学科(In, C, A)1~3年までと、教職員が鑑賞した。「入場者数632名程度」

P.M.:6.00より、ゴールデンプラザ中の島でレセプションを開催46名が出席。

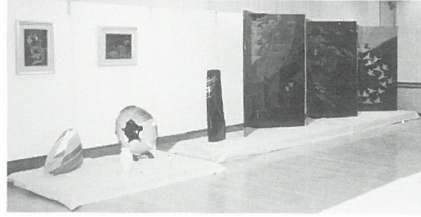
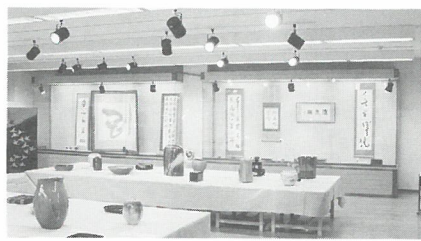
■12日(木) A.M.:9.30開館
P.M.:1.00より各学科(K, M, E)1~3年までと教職員が鑑賞、一般客も含めて「入場者数460名程度」

■13日(金) A.M.:9.30開館
P.M.:1.00より各学科(M, D, J)1~3年までと教職員が鑑賞、一般客も含めて「入場者数436名程度」
P.M.:3.30より会場の後始末。5.10終了。

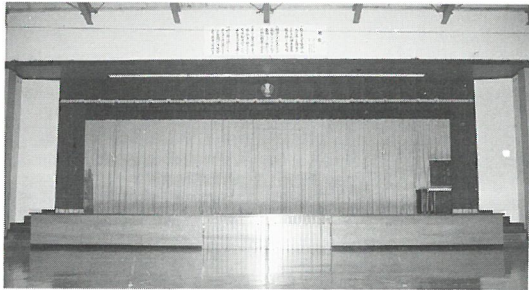
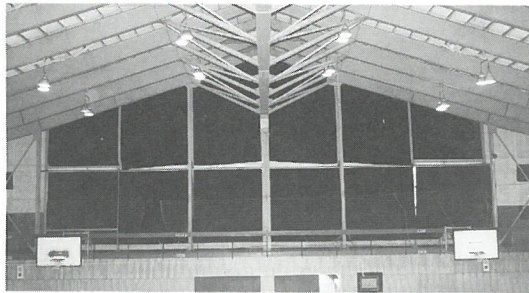
■まとめ
(a). 準備期間が少なく不安な要因もあったが、平日の開催においては、入場者数もまあまあの状況であり、内容的にも立派であったという各方面からの評価であった。
(b). 今回を次回の布石として戴ければ幸いです。

以上、事務局の力不足を、本校90周年分校40周年実行委員長吉田一栄様をはじめ同窓会、出品者各位、美術展実行委員長山内清司様並びに実行委員各位のご協力により、成功裡に終了することができましたこと、感謝申し上げます。

終わりに、会津若松市教育委員会の共催と、会津本郷町教育委員会、会津美術協会、会津工芸新生会の後援に厚く感謝申し上げ、御礼の言葉といたします。



- [出品者]受付順 * [封緘者(英字)]は学科
〈日本画〉佐藤 隆(L) 長谷川善次(K) * 酒井白澄(L)
〈洋画〉渡部常好(A) 坂井 健(K) 中島正規(K) 小川彰一(C) * 相田直彦(T) 佐々木雅彦(美術部顧問)
〈彫塑〉細井良雄(M) * 星 三郎(K) * 金成直輔(K)
〈工芸美術〉儀同哲夫(L) 山内清司(L) 照井克彦(L) 坂内恵勝(L) 佐竹伸也(K) 渡辺雅旺(K) 永山克雄(L) 須藤紀雄(L) 長谷川靖夫(L) 長谷川浩之(L) 佐藤 幹(G) 佐藤達夫(L) 木村 弘(テ) 小松茂夫(L) 堤 章(C) 大沢周一(L) 佐竹敦夫(A) 佐竹幹夫(K) 梨子本 傑(K) 志賀房男(F) 手代木仁(K) 宗像利浩(K) 田代清治衛門(K) 風間真一(L) 斎藤四志男(K) 須藤靖典(L) 稲本可文(K) 中里壽克(C) 曾根英昭(C) 佐藤公平(L) 岩瀬浩之(L) * 小野虎山(K) * 大竹五郎(K) 江花光泰(L) 折笠光助(L)
〈書〉星 昭(T) 樋口義容(F) 星 光(C) 笠井英夫(T)
〈会工美術部〉五十嵐健一(3In) 伊藤雅俊(3In) 遠藤和行(3In) 平塚恵子(3In) 斎藤香代子(3In) 築田ミキ(3A) 川井 純(1In) 渡久地真樹子(1In) 渡部康夫(1In) 渡部友博(1D) 青山博幸(1A) 佐々木恵一(1A)



●写真(上)暗幕の改装(下)ステージ文字と袖幕の改装



●補修された「野宴の図」

時代への 挑戦。

嗚呼我等が会工。百周年への序章



記念誌 B三三七頁

会工高新聞

百周年に向かって新たな一歩を!!

創立九十周年記念式典挙行

平成四年十一月六日午前十一時

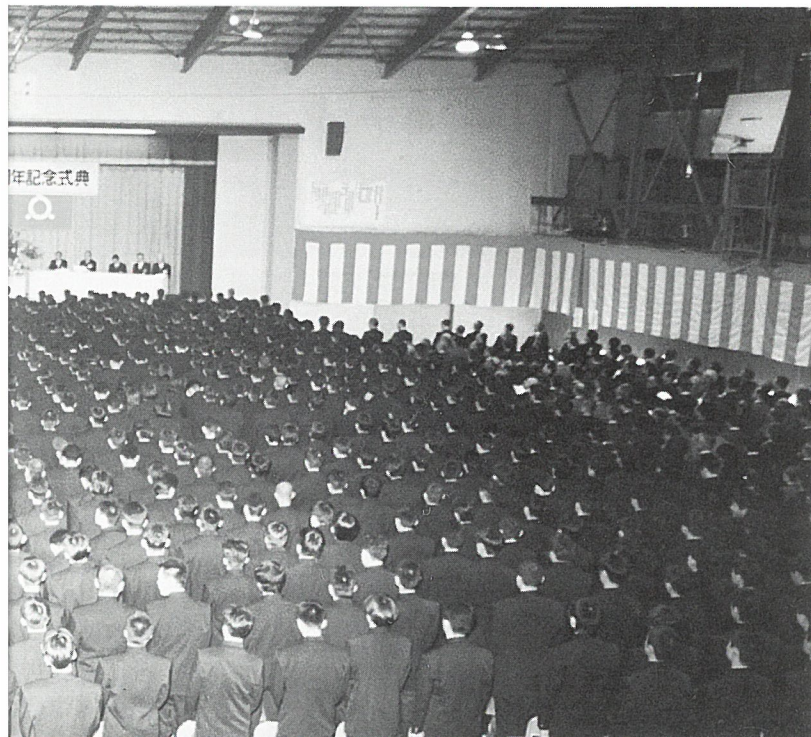
温故知新

本校創立九十周年

会工高新聞 クロイド版4頁

会工資料館等の整備

体育館幕群の整備



40周年記念式典・祝賀会ドキュメント



東京会工会の首領で祝杯を上げ、歓談する。戦後の混乱期に後輩の進路を拓かれ、同窓会の再建に尽力された東京会の功績の大きさは、校史に特筆されるのもとり、永く語り継がれていくにちがいない。室井忠六会長はこの式典の成功を吉田会長と称えあいながら、百周年への想いを披瀝しあう、その横顔が、献身的な努力の軌跡をよく物語ってくれているとつ、よく参会者は多かった。



この度のご寄付のご協力について関係企業所より二百七十余件、

歴代会長	年号/年/月/日	主なできごと	西暦
	明治35・9	■福島県立工業学校設立認可。	1902
	明治37・4・15	■第一回入学式。	1904
		同日をもって創立記念日とする。	
	明治38・3・27	■第一回卒業式。	1905
下山又次郎校長 ⇒明治40・3	明治40・3・27	■同窓会創立総会。	1907
		卒業式後の総会が恒例となる。	
	大正3	■福工誌を発刊。	1914
金子篤寿校長 ⇒大正6・1	大正8・11・15	■創立15周年記念式典。	1920
	大正11・10・30	■校旗調製のため25円を寄付。 (学制頒布50周年記念事業として)	1922
	11・6	■校歌制定。	
	12・21	■校旗披露式(京都高島屋製)	
正木遊方校長 ⇒大正14・6	大正14	■この頃から会報の発行始まる。	1925
		■終身会員制度を設ける。	
	昭和4・4	■福島県立会津工業学校と改称。	1929
井口直次郎校長 ⇒昭和6・6	昭和8	■福工誌を会工誌と改める。	1933
	昭和10	■創立30周年記念式典。	1935
		記念事業として奉安殿竣工。	
	昭和11・7・10	■後援会(P T Aの前身)設立。	1936
高橋清章校長 ⇒昭和13・1	昭和13・1・27	■永井奨学金の設置。	1938
	昭和14・4・1	■機械科の新設。 (松江春次氏の尽力による)	1939
	9・30	■運動場の新設。 (鈴木善九郎氏の尽力による)	
	11・23	■松江記念館開館式。	
	昭和16・10	■創立35周年記念式典。	1941
	12・8	■太平洋戦争始まり、痛ましい犠牲者を多数出す。	1941
河野幸男校長 ⇒昭和18・11	昭和20・3・28	■第40回卒業式。4・5年同時卒業。	1945
	8・15	■太平洋戦争終わり、学校工場動員生徒解散式。	
	昭和23・4	■福島県立会津工業高等学校と改称。	1948
	7・19	■P T A結成、初代会長に鈴木善九郎氏を選出。	
佐々木実校長 ⇒昭和23・10	昭和24・3・5	■新制高等学校第1回卒業式。	1949
	5・6	■生徒会を組織。	
秋山寛二会長 ⇒昭和28・5	昭和28・5・5	■戦後初の同窓会総会を東京代々木文化会館で開く。	1953
	6・6	■若松会工会の設立。	
	6・27	■全国代表者協議会。	
	7・4	■同窓会臨時総会を母校で開き、新会則を定める。	
吉川 省再建代表 ⇒昭和29・6	昭和29・6	■同窓会再建。	1954
		■10月に理事会発足、佐藤勝次、新田義一、西村 忠、菊地 巖の4名を中心に運営する。	
	11・1	■創立50周年記念式典。	
	昭和30・5・17	■記念事業の松江翁胸像除幕式。	1955
新田義一 理事会議長 ⇒昭和33・5	昭和34・5・8	■福島会工会を結成。	1959
	昭和36・6・4	■近畿会工会を結成。	1961
	10・12	■鈴木善九郎翁胸像除幕式。	
	昭和39・6・7	■東海地区会工会を結成。	1964
	9・12	■母校にプールを寄贈。	
	昭和40・11・22～24	■創立60周年記念行事。体育館落成。	1965
	昭和45・12・13	■全国同窓会を東京で開く。	1970
	昭和46・11・2	■創立70周年記念式典。	1971
吉川 省会長(⇒昭和49・11) 佐藤勝次会長代理(⇒昭和50・10)			
佐藤勝次会長 ⇒昭和51・12	昭和54・8・18	■会津坂下支部設立総会。	1979
吉田一栄会長 ⇒昭和54・10	昭和57・11・2	■創立80周年記念式典。 (前庭ロータリーの造園、校歌碑の建立はこの記念事業による)	1982
	12・9	■記念事業の会工会館竣工。	
	平成4・8・30	■会工トレーニングセンター竣工。 (創立90周年の記念事業による)	1992
	11・6	■創立90周年記念式典。 (会工資料館の整備、体育館の幕群の整備もこの記念事業による)	
	11・11～13	■同窓生の美術展 (記念事業による)	



前夜までの荒天がうそのように、晴れがましい朝を迎え、それぞれの立場で、一同ほっとしたにちがいない。それだけに、祝賀会場の学校関係者の安らぎの表情が印象深かった。



校史の記念すべき日を体感し、彩りどりの思い出を刻み、やがてこの日の語りへととしての役割を演じながら、21世紀に繋ぐ会工の歴史と伝統の担い手となる。



式後、同窓諸兄から在校生のマナーの良さに賛辞の電話が数多く寄せられたという。校史をひもとく機会を得て、その歩みと伝統に襟を正めたのは、ひとり後輩ばかりではあるまい。



セレモニー前の音合わせに余念がない吹奏楽部。同窓生と在校生、学校関係者の熱い想いのコンチエルトをリードしながら、記念すべき日の思い出を部活の想い出に刻んでいく。



10年目に巡りくる記念式典。その栄えある日のセレモニーの一部始終を記憶しているものは少ない。それだけに、ときめきは大きく、メモリアルも深い。招く側も招かれる側も。



第1回卒業生の写真がある。松井謙吉披露式当時のリポートもある。そして、戦時体制下のエッセイがある。創立百周年のときに集録するであろう資料が、この日やっと安らぎを得た。遅きに失ったと叫ぶのはたやすい。これからでもいいじゃないか、会工健男児の青春の軌跡を語り伝えよう。

同窓生諸兄の母校愛を 有り難く、皆様に。

同窓会長 吉田 一栄

会津工業高等学校創立九十周年並びに分校四十周年記念行事に際しては絶大なご支援、ご協力のもと無事滞る事なく祝賀式を盛大に開催出来ましたことに深甚より感謝申し上げます。

この度の記念行事並びに事業に關しましては学校関係、関係企業所、同窓会、P T A各位の一致協力により予期以上の多大の成果を収める事が出来ました。記念事業として取り上げられました会工トレーニングセンターの建設は在校生の体位向上に、会工資料館の整備並びに資料の補修は徳育の養成に不可欠のものであり、またこれに合せ同窓生各位による立派な美術展が開催され花を添えることが出来ました。在校生にはトレーニングセンター等の施設・設備をフルに活用されて各部の成績向上に役立てて戴ければ幸いです。

一連の事業内容報告は別記の通りですが、この間実行委員会の皆様には度々の打合せに、ご多忙にもかかわらず貴重なご意見・ご助言ならびに温い励ましのお言葉をいただき、お陰様にて諸事業をつづが無く乗り切る事が出来ましたことに厚く御礼申し上げます。この度の祝賀会には関係各位の多数のご列席をいただきました。この祝賀会にての鈴木綱夫氏を筆頭に大先輩の方々の、元氣溢れる校歌・応援歌の大合唱に会工同窓会の前途が益々盛なるを感じました。

記念祝賀式の終了とともに、百周年への第一歩が歩み出されたこととなります。これから目指す百周年記念までには、やらねばならない課題が山積していることと思われませんが、学校関係と同窓会の皆様の英知を集めて、共に我ら同窓生として何ができるべきかまたどう成すべきかを見つめ、先人の築いてこられた立派な伝統を踏襲し、産学協同をもってこれから百周年に向けて出発する「会工」飛翔の指針を、ご指導賜わります。

同窓2万、鶴雲雄飛。

百周年への序章。

同窓生総数19532(旧制3089)染色・繊維2483(823)漆工・工
溶接65(0)[分校]窯業296(0)車両整49(0)[専攻科]デザ



式辞・川利彌校長 工業教育界での文武両道の果敢な実践はつとに有名。

- 【記念式典】
会場 会工体育館
日時 平成四年十一月十六日(金)十時三十分
1、開式のことば
2、君が代斉唱
3、黙 禱
4、学校長式辞
5、あいさつ
6、実行委員長・県教育長
7、感謝状・表彰状
8、祝 辞
9、県議会議員・県教育委員長
10、会津方部市町村長代表・県高校長協会会長
11、来賓紹介・祝電披露
12、受賞者代表あいさつ
13、生徒代表のことば
14、校歌斉唱
15、閉式のことば
- 【祝賀会】
日時 同日十二時三十分より
会場 ゴールデンプラザ中の島会館
大広間

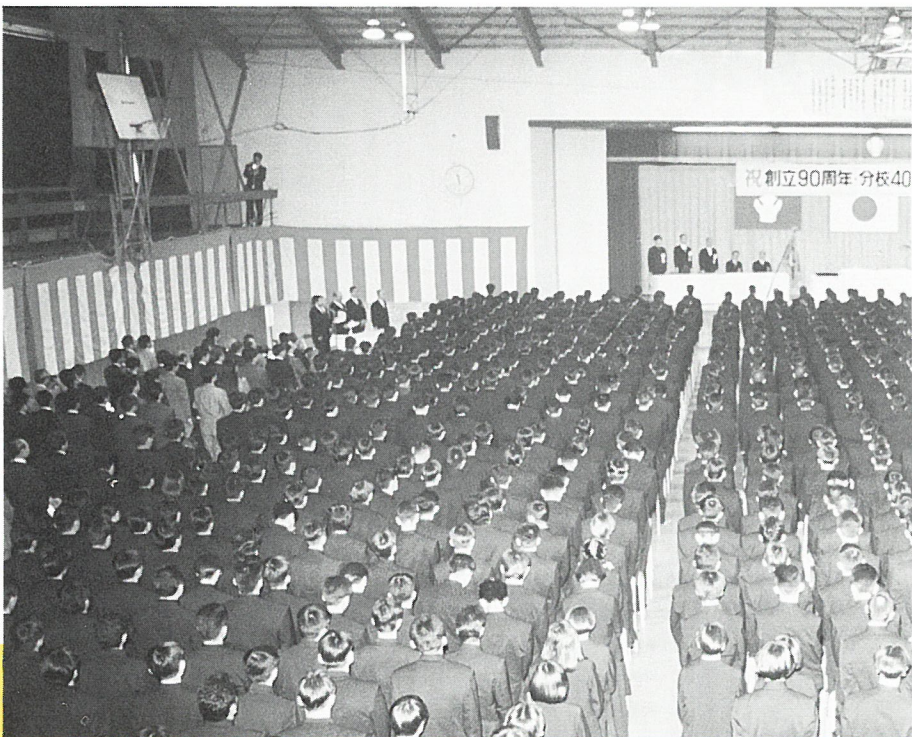


ここは、我等同窓1万9,532の
パンカラ健男児の心の故里。三
本線の縦横帽子が年経ること
に似つかわしく思えてならない
は、母校への誇りとその青春
への思い入れのせいだろうか。

昭和4年、川俣町に染織科の県
立工業学校が開設されるまで県
下唯一の工業学校であった我が
母校の教育界と産業界に果た
した意義と役割は測り知れない
ほど大きい。

創立前夜の秘話に、県議会で時
期尚早と否決された後、会津方
部全町村組合立の設立に向けた
動きもあったという。更なる地
域発展を期し、本校に寄せる希
いは、いまでも変わらない。

多様化し、ボーダレス化する産
業社会。今日の青春群像のナイ
ーブな感性が見つめ直される日
は近い。それにしても、式典で
の後輩たちの何と凛々しかった
ことか……涙張れ、会工健男児。



1992.11.6 本校創立90周年並びに分校



同窓一四六の仲間呼びかけ、
校歌・心援歌を合唱しながら
青春を懐想する楽しさ。
東海からの便り

名古屋を中心として、愛知、岐阜、三重の
三県下に福島県出身者は推定で二千人位お
ると云われて居ります。公務員の転勤族や大
企業の相談役、会長、社長、幹部と錚々たる
人物です。十七年前、お国こぼれで来津に話
しあえる場を、つづつとの発想から、一手を
つなぐ会が、つくられ、これが母体の一部
となり、東海福島県人会が、発足しました。
現在では会員総数五八一名となり、新年忘年
会を兼ねた役員会、春季一泊、又は日帰りの
バス旅行、十月には総会が開催されます。東海
会士会員も十数名、又全津からは一五九名
が入会して居ります。総会には、母県から県
知事、広報広聴課長、福島県大政事務所
長、関西福島県人会、東北五県人会の代表
地元からは、愛知県知事、出納長、国会、県
市会議員等多数の来賓を迎え、会員及家族
二百余名参加し盛大に開催されます。岐阜
三重県知事からは祝電がきます。関係各位
の挨拶の後には全員で「福島県民の歌」と
「北国の春」を合唱して閉会します。懇親会
は屋外で立食パーティーとなり、饗宴から始ま



母校への熱い想いと、同窓
と一緒に会する喜びを語る
東海支部長の岩瀬博さん。

り、メートル上る頃、カラオケ大会もありあら
う、こちらにお国こぼれが飛びかいた方ばかりの
再会を喜びあう者、参加者が誰彼なく気安
く談笑出来る雰囲気は楽しいものです。前知
事、松平氏はたびたび来賓として会員と一緒
に写真をとったり飲食を共に談笑されたりわ
れました。突然訪し知事に面会を申し込んでも
断わられるどころか、県人会会場は気
安く知事と語り合う事が出来る特権の場でも
あります。福引抽選もあり最高はハワイ三泊
五日へ優待海外旅行券です。愛知県より報
償金として二十万円の米、こしひかりが全
員に帰りの土産品として配布されます。
永沼事務局長は福島県知事より「しよくなげ
大使」に委嘱されました。
会津の高校で同窓会のあるのは、我が東海
会士と会津中学会津高校同窓会中部支部
の二つです。東海会士会会員は一四六名、連
絡のとれる者八十名余で総会に出席する者は
三十名前後です。会中全同窓会会員は一
〇名で、年一回、三越百貨店でみちのく大
福島観光物産展の開催期に総会が開かれま
す。今年は二月八日、第五回総会が開かれ
私も特別参加して来津した夫人同伴で女子
高出身者の参加も大歓迎で華やかな雰囲気
でした。宴も盛り上ると同郷の好みで、和気あ
いとなり故郷の話題に華をさせた次第で
す。参加者総数三十名で最後は母校の校
歌、心援歌を合唱して散会となります。
女子高校同窓会発足の話題もありますが
実現されて居りません。



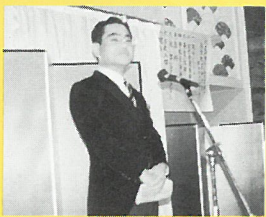
近畿会工若林精二部大先輩の首領で
同窓二万への連帯のメッセージを込めて万歳三唱。
孤軍奮闘!! 関西に拓いた会津隊が
後輩の志気を高めた功績は特筆されよう。

宴もたけなわ、ガンバレ応援歌の
大合唱となり、若き日の血がたぎる。

創立百周年へ向けて、同窓の絆を深めあおう!!

ここに掲載したのは一例です。地域会・職場会の輪を広げるため、事務局で集めます。ご一報ください。

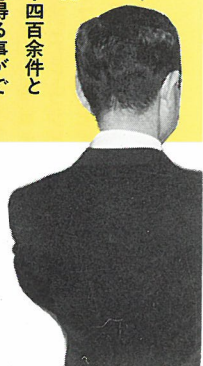
- ☎0242-27-7456...事務局
☎0242-28-0457...会長
☎0242-27-3600...副会長
☎0242-22-6493...副会長
☎0242-22-7886...幹事長
☎0242-22-5550...監査
☎0242-24-3225...事務局
☎045-784-0261...東京
☎03-3686-1251...東京
☎048-752-6186...東京
☎0798-72-5675...近畿
☎06-244-1574...近畿
☎052-351-2793...東海
☎0568-72-1338...東海
☎0245-46-6122...福島
☎0249-34-1382...郡山
☎0249-51-2875...郡山
☎0242-83-2204...会津坂下
☎0241-45-2853...西会津
☎0241-27-4480...湯川
- 会津工業高等学校...〒965会津若松市徒之町1-3-7
専用FAX0242-29-1992 同窓職員代表 小沼孝生教諭
吉田一栄...〒965会津若松市材木町1-3-7(住吉町183)
片平忠正...〒965会津若松市材木町1-1
山内清司...〒965会津若松市大町1-5-23
斎藤恵一...〒965会津若松市七日町8-41
菅井貞雄...〒965会津若松市一箕町鶴賀字郷之原383-11
(代表)小沼孝生...〒965会津若松市一箕町鶴賀字郷之原50-4
(支部長)室井忠六...〒236横浜市金沢区西柴2-27-4
(事務局)赤津伸雄...〒134東京都江戸川区中葛西1-38-11
(幹事長)五十嵐 栄...〒344春日部市増富243-84
(支部長)若林精二...〒662西宮市五月ヶ丘9-30
(幹事長)上林孝之...〒542大阪市中央区東心斎橋1-4-11大和ビル上林商
(支部長)岩淵 博...〒454名古屋市中川区愛知町24-12
(幹事長)佐瀬一信...〒485愛知県小牧市小南3-405
(支部長)星 武...〒960-11福島市平石字塚田18-10
(支部長)小松文次...〒963郡山市朝日町1丁目(死亡)
(幹事長)荒井 久...〒963郡山市開成3-12-23
(支部長)江川一正...〒969-65会津坂下町字五反田1283-4
(支部長)田崎良東...〒969-44西会津町野沢本町1195
(支部長)山口瑞穂...〒969-35湯川村字宇2429



校長の謝辞、同窓生にとっても感謝無量の
メッセージであったことをレポートしておく。

御父兄の皆さん、千余件、
そして同窓会の皆様より
東洋電業株式会社社長
鈴木正夫氏より即刻頂いた
多大なご寄付を筆頭に、千四百余件と
総数で三千余件のご協力を得る事がで
き目的達成をみる事が出来ました。
同窓生にありましては、小額ながら母
校の発展と後輩の将来を期待して寄
せて下さった方々多数の熱意に対し衷心
より感謝申し上げますと共に、今後と
もご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げ
御礼の言葉といたします。
最後になりましたが本会に多大なご
協力とご尽力を戴きました会津会工
副会長佐藤一氏、また郡山会工
小松文次氏が九十周年記念式典を目前
にご他界なされました事を慎んでご
報告申し上げますと共に、生前のご
高配に衷心より感謝申し上げます。ご冥福を
お祈り致します。

同窓会の理解・支援に謝し、母校運営の労苦をねぎらう。



●卒業式
●進級判定会議
●学年PTA
●終業式
●入学試験

●3学期末考査
●3年課程学習
●2年就公模試
●卒業判定会議
●危険物取扱者試験
●1・2学期末考査
●表彰式・卒業式予行

●第3学期始業式
●課題テスト
●情報技能検定
●推薦入試
●2年進学補習
(1～3月)

●期末考査
●学年PTA
●第2学期終業式
●冬休休業

●2年就公模試
●進学模試
●計算技術検定
●防火訓練

●福島県新人戦
(10～12月)
●中間考査
●進学校模試
●会工祭
●危険物取扱者試験

平成四年会工はいま。

教頭半野幸雄 母校からのレポート

会工同窓会会報第十七号の発刊にあたって、皆様の母校「会工」の教育活動の一端をご報告申し上げます。

情報化社会と言われて久しいのですが、本校に学ぶ生徒たちは、世界をリードする我が国の工業界を担うべく教育を受けています。

本校では、この薔薇色に輝く二十一世紀に生きる若者に「未来を約束する技術と生きがい」を開発する能力の養成をねらい、及川校長を頂点に教職員一丸となって、日頃から教育活動に励んでおります。

昨年は三年に一度の会工祭が催され、工業高校らしい科学技術の先端を垣間見せる展示物・実験・実習等が披露されました。

今年は、十一月六日、創立九十周年・分校四十周年記念式典が厳粛かつ盛大に挙行され、その後に、記念祝賀会が行なわれました。

すでに、記念式典において実行委員長並びに学校長から報告がなされましたように、「会工トレーニングセンター」が完成しております。独立の建物としてのトレーニングセンターは県内高等学校で最初の建物です。これで、本校は誇りとするものがまた一つ増えました。次に、会工資料については来る百周年記念事業の実施に耐え得るように保存状態を維持すべく「会工資料室」の一部改装と会工資料の改修等も行なうことができました。

「未来を約束する技術と生きがい」を開発する能力の養成を。

J●情報技術科 主任 久家克士

難関の資格・検定クリアと、会津大学の開学に期待を寄せながら…

平成四年三月一日の卒業式に情報技術科第一期生三十九名が晴れて社会へ巣立っていきましました。新設の科ということで、施設・設備を初め何かと苦労も大きかったと思いますが、名譽ある一期生であることを忘れず今後続く後輩のために実社会で活躍して欲しいと思います。

四月に待望の情報技術科専用の実習室が完成し、仮住まいから引っ越ししました。新築特有の香りのするカーベット敷きの電子計算機実習室、プログラミング実習室、ハードの実習や製作を行なう情報総合実習室が完成しました。気持ち新たに、今まで以上に職員六名力を合わせて充実・発展に努力しようと思います。

の先生方をお迎えしました。

（退職）

青津直校長、新藤裕事務長、橋本道雄教諭、松本利男教諭、上田彬教諭、松本利男講師、山本清三講師、長嶺昌講師、保志和吉講師、佐藤進講師、橋本英雄講師

（転出）

小澤節雄教諭、白河実業高等学校教頭、佐藤宏志教諭、相馬農業高等学校後藤文夫教諭、会津第二高等学校、島後藤文夫教諭、坂下高等学校、鈴木雅弘教諭、相馬高等学校、渡辺慎市教諭、県立博物館、鶴山秀俊教諭、四倉高等学校、神山山田忠教諭、川口高等学校、帆足勉教諭、二本松工業高等学校、木村勝人教諭、小高工業高等学校、内藤陸郎教諭、郡山北工業高等学校、室井摩矢子教諭、白河実業高等学校、岩田善一主任実習講師、喜多方工業高等学校、齋藤敏主査、若松社会福祉事務所、新採用、須田昌義、佐々木雅彦、佐藤茂紀、外倉直美、紺野真裕の各教諭、矢口義徳、松本利男、横山永哉、半澤浩、小西章、渡部常好、上田彬の各講師、菅野幸一実習助手。

（転入）
勿来工業高等学校、及川利彌校長、喜多方女子高等学校、高橋慶一事務長、県文化センター、佐々木修教諭、新地高等学校、新田匡浩教諭、船引高等学校、越尾英仁教諭、坂下高等学校、青井勝教諭、只見高等学校、加藤義勝教諭、塩田工業高等学校、渡部哲教諭、喜多

何分歴史も浅く、実績もない科でありますので、同窓会各位のご指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

今年度の進路状況は、昨年と異なり不景気の嵐のあおりにより、一次試験では数名の生徒が思いどおりにいきませんでした。がどうにか就職希望者のほとんどが内定しました。今後は進学者の指導に全力を尽くしたいと思っております。特に、今年度開校の会津大学には是非とも入学させたいと思っております。入学時には各種専門学校を含めて、約半数いた進学者希望者が、三年時に十名程度になりましたが、それでも、進学の現状判断に非常なあまさが見られます。初心を生かすためにも、低学年から大学進学がいかにかに難しいかを認識させ、それ乗り越える努力を教えるなければならないと痛感します。

本科では、各種資格・検定取得に科独自の講習会を開き、力をあげていますが、今年度の春季第一種情報処理技術者試験に一名の合格者が出ました。その成果は着々と上がっています。今後は更に多くの合格者をだすようがんばりたいと思います。



三人の目を凝らす情報科
先月の教育実習で、ハイテク実習設備を授業に導入し、産業社会と生徒諸君の期待に応えます。

方工業高等学校、佐藤春樹教諭、郡山北工業高等学校、関根敬次教諭、勿来工業高等学校、松下俊彦教諭、喜多方工業高等学校、遠山武彦主任実習講師、若松出納事務所、田中利栄主査。

新採用の先生を含め合計二十六名の先生方をお迎えしました。

実習講師に栄進された方々。

岩淵浩之、湯田三子、山本義文、鈴木稔、大瀧達明、赤池洋一。

（新入生）

推薦入学は、目的意識が明確で、適性があり、成績優秀で人物が優れていることを条件として、出身中学校長の推薦を受けた者の中から決定されます。

平成四年度におけるM、E、C、D、A、J、I、n、Kの八学科推薦入学による合格者は八十二名で、その平均倍率は一・三七倍でした。この倍率は昨年度の倍率より〇・二ポイント上がりました。

一般学力検査では、M科一・二倍、E科一・二倍、C科一・二倍、D科一・二倍、A科一・〇九倍、J科一・〇倍、I科一・〇倍、K科一・二倍の希望者で八学科における平均倍率は約一・一倍となりました。今年も一名の再募集がありました。昨年に比べ、良好な傾向といえます。

合格者の総数は三六五名（内女子二名）で、その内、家事部会による転校者が一名あり、現在の一年生の在籍者数は三六四名（内女子二〇名）となっています。

本郷分校は、定時制実業高校という

In●インテリア科 主任 江花光泰

装いを新たにした伝統の学科はいま、着実に拡充して、時代を先取り。

本校を設立して早や九十年、先日の創立記念式典は無事終了しましたが、本科は創立時からの科の伝統を受けついで卒業生名簿には明治三十四年三月の漆器徒弟学校の卒業生が記載され最も古い記録を保持しており、科の立場からいへば今年が創立九十四周年なのではないかなど記念誌には書いた次第です。

その後「工芸科」を経て、昭和六十一年からは「インテリア科」として発足、七年度目となりましたが、現在、在籍生徒は一年四十名、内女子は十一名、二年は四十名、女子十五名、三年は三十八名、女子九名と約四分の一が女子生徒です。女性の社会進出に合せて徐々にふえつつあり、黄色い声もさかんに楽しい雰囲気、黄色い声もさかんに楽しい雰囲気、仲々のもので先日のクラス対抗綱引き

特殊性のためか希望者数、受験者数共に定員に達していないのが現状です。

（部活動）

今年度も、高校総体・会津地区大会と高校野球会津地区予選の優勝と運動部の活躍が目立ち、伝統を一層積み重ねました。

県高校総体で好成績を上げ、東北高校総体を経て、全国インターハイに出場したのは、陸上競技、バドミントン、水泳、体操の各部でした。県旗の旗手に三Kの星孝典君（東北高校総体の三段跳びで大会新記録）が選ばれました。これに続く国体に繋がる県総体・東北総体においても同様に活躍しております。

野球部は春に続いて秋季地区大会（「新人大会」においても優勝を獲たし、県大会へ駒を進めました。

さらに、これから行なわれるスキーの高校総体・県大会を経て昨年に続いて高校総体・県大会・会津地区杯が獲得できました。三年連続の優勝となります。

文化部関係では、運動部ほどの華やかさや躍動性は見られないのですが、音楽部（「吹奏楽委員会」が例年のように市民館で定期演奏会を開きます。その他、県吹奏楽コンクール出場では銅賞でしたが、今後の活躍が期待されます。

その他に、野球部員の保護者の方が合宿所に冷蔵庫と洗濯機を、電子科OBの方がオーボエを音楽部（「吹奏楽委員会」に寄贈されました。

では一年は女子生徒が多いにもかかわらず優勝するなど「天晴れ！」といわざるを得ません。

今年度、先ずご報告しなければならぬ点は、一昨年から取りかかっていた南二棟の実習棟の改築であります。これ迄の南二棟（インテリア・セラミックス）の鉄骨二階建てと南三棟（旧繊維工業科）の鉄骨平屋建ての実習棟が取りこまれ、なかなか思い通りの校舎が存在しなくなると悲しさにうひひしがれながらも、これ迄の設備・備品等の保存・搬送に生徒達と汗を流し、工事中の一年間は化学工業科の実習室の一隅を借用して科務室とし、実習図の授業では校外に出て、一時は校外の舗道に出てからまた校舎に入るという状況で不便なところも多くありました。今春四月に第一期工事が完了し、塗装実習室、接着成形実習室、科務室、造形実習室、情報造形実習室の引渡しを受けるに到りました。

塗装室は、インテリア関連の大型部

進路状況等に関しては、係から詳細なご報告がありますので、割愛させていただきます。

（同窓会関係）

今年度の各地域の会工会も、盛大で和やかに催されました。

吉田会長、及川校長以下学校関係者がお招きいただきました。

一、郡山会工会
五月十五日（金）郡山市
二、東海会工会
六月七日（日）名古屋
三、東京会工会
六月十三日（土）東京都
四、近畿会工会
六月二十四日（日）高槻市
五、坂下会工会
八月二十四日（月）会津坂下町

なお、創立九十周年記念行事等に関するご報告のとおりであります。昨年も伺いましたことですが、東海支部・近畿支部では、後輩が後継者として来てくれることを切望しております。



材の塗装加工の出来るように開口部も大きくとり、パーテーションのパネル加工などの実習もしやすくなっています。また、接着成形室は大型プレス機械・真空成形機が設置され同時にミスパンを二対一に分割可能なスライディングウォールを設け、モデルルームのセツトも可能なシステムとして室内装飾や店舗装飾の研究開発に対応出来るように配慮しています。

次年度からスタート予定の「課題研究」の授業でもその力が発揮されるでしょう。

造形実習室では、造形・創作活動の拠点としてデッサンなどの表現力、デザイン・創造力育成をし易いように特に室内全体の採光、十六個所からのスポットライト、調光装置を設け、映像デザイン分野も考えています。なお、ここでもスライディングウォールを入れて情報造形室としてコンピュータによるCGグラフィックやデザイン制作の出来るようにそのスペースをと

K ●セラミックス科

主任 斎藤 四志男

うれしかった。卒業・セラミック両科のOBが一同に会する機会を得て：

セラミック科は昭和六十一年四月に新設されて七年を経過し、卒業生も約一六〇名程になりました。この間、専門分野に就職した者は定着率も高く中堅技術者として活躍しております。また大学に進学した者も学業に専念し、将来の希望に燃えているようです。今年はいよいよ学校創立九十周年を迎えることになり、窯業科・セラミック科の卒業された方々が一同に会する機会に恵まれたことは大変喜びに耐えませんが、今後は百周年に向けてより深い親睦ができるものと期待致しております。

さて、平成二年度に社団法人「日本セラミックス」協会教育委員会が中心となり、セラミックス副読本の編集執筆が行なわれましたが、種々変更などがあり、一年遅れ平成五年三月にようやく完成することになりました。新副読本は、「セラミック材料」「セラミック化学」「セラミック技術」「セラミック実習」で平成六年には文部省から「セラミック工業」が発刊され教育の内容が一層充実されます。一方今年三月に完成した一期工事の実習棟は設備の配置もほぼ完成し一部ながら快適な授業を行っております。また現在二期工事が進め

M ●機械科

主任 吉田 孝男

就職好調時にこそ、科学・技術のめざましい発展に対応できる教材とカリキュラムを。

今年の機械科の進路状況を見てみると、一、二組合わせて七十三名の生徒がおりますが、進学希望者が二名（内、四年生大学が八名、専門学校が四名）で残りの六十一名が就職希望です。就職希望の中には警察、消防、自衛隊等の公務員関係六名おりますが、大半は民間の会社を受験してほぼ全員内定しております。日本の経済が不況の中にあっても、まだまだ若年労働者の需要が多いことが幸いしています。

それでも会社の倒産や一時帰休、配置転換等のニュースが多く目にふれるようです。これからしばらくの間、こうした状況は続くと思われれます。こうし

られ、セラミック科は平成五年春に、二二〇㎡が完成し、従来よりも約二三〇㎡広くなり、学習活動に大きな成果が得られるものと確信致しております。以上、簡単ではございますが科の近況報告といたしまして、なお、詳細につきましては記念誌に掲載いたしましたのでご覧下さい。

諸先輩各位の益々のご健勝とご多幸を祈念し、今後共尚一層のご支援を心からお願い申し上げます。

戦後誕生の学科ですが、有り難い社会の中堅として活躍するOBの励まし。平成三十年十月二十六日から三日間にわたって行われた、会工祭以降の一年間を振り返ってみたいと思います。

平成四年度は明治三十七春なかば、昭和二十五年の第一回卒業生から平成三年度の四十二回生まで、千八百余名の卒業生を世に送り出しました。還暦を迎えられた第一回生を初めとして、多方面で活躍の様子は九十周年記念誌でもご紹介いたしました。

電子科は、昭和三十六年に創設され三十二周年になりました。

卒業生も昭和三十八年度の第一回生から、平成三年度の二十九回生までおよそ千二百名を数えております。

会津工業高校では比較的新しい学科であるが、第一回生は四十才の半ばも過ぎ、今や社会の中堅として活躍されておられます。

さて、平成三年度卒業生の進路状況は次の通りです。

好景氣にめぐまれ、ほぼ所期の目標を達成できたものと思われれます。

平成四年度は、一転不況の波が押し寄せ就職企業の決定にも影響を及ぼしていますが、先輩諸氏の御助力もいたいただきながら、より良い進路決定のため努力をしております。

今年度の職員異動は、本校在職四年電気科三年担任であった木村勝人先生が小高工業高校へ転出されました。

E ●電気科

主任 古河 憲治

D ●電子科

主任 小沼 知久平

代って生徒指導のオーソリティーであり、昭和五十年より四十年間の本校在職経験をお持ちの佐藤春樹先生が喜多方工業高校から赴任されました。また、以前に電子科長を務められ昭和六十六年より三十九年間本校の校長として活躍された青津直先生が退職されました。

今年度は、電気・電子科としての大きな行事もなく特筆することはありませんが、職員・生徒とも記念すべき九十周年の年に巡りあう事を慶び、意義ある年にすべく努力したいと思っております。

尚、表記の通り電気科田辺精治、電子科小沼知久平の両ベテラン科長の跡を受け、古河・小沼知が科長を務めることになりました。

今後ともよろしくお願いいたします。

A ●建築科

主任 関根 敬次

根に使われていた「会津赤瓦」(新鶴・喜多方の産、大正末期昭和初期の作、旧二十九連隊の兵舎に使われたかわらをのせることが出来ました。二点目は校舎内部装飾のことです。校舎敷地の関係で中廊下方式となり、廊下をはさんで北側にも実習室が作られるため、採光などに特段の配慮をお願いしました。吹抜けやトップライトを設けるなど弱点を大きく補い使いこころの良い校舎になりました。

四月から入れた三年生には幸せでした。現在第二期工事がすすめられ、インテリア科はあと一室、材料実験実習室の完成が待たれますが、実験室と造形室の間には中庭が設計されて居り、ここに本科の職員である日展作家の岩瀬浩之先生のデザインになる大壁画「エ

増える県外就職、進学志向。進路指導 稲田 盛夫

本年度の求人について本校にもバブル経済崩壊の影響が少なからずありました。ちなみに、求人企業数が昨年度より二五〇社減となり、また、求人数も昨年より減少の企業が多くあり、かつ、求人票送付された後に求人の取り消しや、求人数の減少があり、また、願書受付前にすでに充てられているので断りの企業があつたりして、例年になく二学期始めはあつた感じがします。

本年度の企業就職状況については、九月二十九日現在で二六〇名内定しています。合格率は八五％で、二年度では最低の数字である。あと五〇名ほどが結果待ちやこれから受験する生徒です。今後も、進路変更の就職希望者が出てくるので、大勢が決まるのは二月になります。本年度は県外就職が増え、昨年度五五％、本年度は県外就職が四一％(昨年度四六％)となっています。

二年度の産業別就職では、電気機械器具製造業が一番多く、次いで建設業、サービス業、精密機械器具製造業、卸売業、小売業、精密機械器具製造業、卸売業、小売業は変わらないが、次いでサービス業、建設業、金属製品製造業、電気・ガス・水道業の順になっており、今の生徒の職を選ぶ考え方がこれまでとかなり変化しています。

一方、進学希望者は年々増加しており、昨年度二一％位になりそうです。学校では二・三年生に対して課外進学補習や模試を実施し、学力向上につとめているところですが、ともあれ生徒自身のやる気と実行力が伴わないと効果が表れないので、自分のためにも真剣に取り組んでほしいものです。

最後に就職先定着の問題ですが、毎年地元と京浜地区の就職者に対してのアフターケアを実施して離職防止につとめています。県内全体の高卒の離職率が入社三年間で四六％と半ば近く上つています。

工場などでの体験学習、生徒の適性を見て就職先の推せん、企業側も科学的な判断を基に適性な職場への配置、職業観を植えつけるような職業教育などいろいろな面から、職場への定着をはかるような指導が、今後はなおのこと重要になると考えます。そして進学するにしろ就職するにしろ、自分では「やりがい」「生きがい」を感じるような対象に向かっていくことが大切なことではないでしょうか。

殺到する建設業界からの求人。職場も志向の多様化に応え得る環境づくりを。はじめまして、会工同窓会会報の発行にあたり、一言、挨拶申し上げます。今年には創立90周年を迎え、記念行事、並びに記念事業等が決議されました。このことにより、同窓会各位の皆様には趣旨のご理解をいただき、ご支援とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

今年度三年生は在籍42名、内女子8名で、進路希望状況は就職19名、内女子5名、公務員5名、大学進学8名、内女子2名、専門学校10名、内女子1名となつています。全体の求人状況は不況を反映して、昨年より少く変化が見られます。しかし、建設業界における若い労働力は不足している現状から、建築科における求人数は二四社にのぼり、各企業に大変ご迷惑をお掛けしているところと見えます。これもひとえに、同窓会各位の産業界におけるご努力、ご活躍が伝統として築かれた賜物として感謝申し上げます。なお、最近の生徒の特徴として、建設業界で働くこととする意欲に欠けているように思われます。これからは魅力ある創造性豊かな職場であることを企業と学校が情報交換をして啓発することが大事ではないかと思われれます。

最後に、同窓会各位の皆様方のご多幸をお祈りして、ご挨拶といたします。

根に使われていた「会津赤瓦」(新鶴・喜多方の産、大正末期昭和初期の作、旧二十九連隊の兵舎に使われたかわらをのせることが出来ました。二点目は校舎内部装飾のことです。校舎敷地の関係で中廊下方式となり、廊下をはさんで北側にも実習室が作られるため、採光などに特段の配慮をお願いしました。吹抜けやトップライトを設けるなど弱点を大きく補い使いこころの良い校舎になりました。

四月から入れた三年生には幸せでした。現在第二期工事がすすめられ、インテリア科はあと一室、材料実験実習室の完成が待たれますが、実験室と造形室の間には中庭が設計されて居り、ここに本科の職員である日展作家の岩瀬浩之先生のデザインになる大壁画「エ

